

首都圏在住女子大学生における 場面別母音体系の音響音声学的考察

齋 藤 孝 滋 編

藤沢綾乃・新堀 薫・佐久間衣歩・渋谷絵梨香・渡辺詩織
尾関 史・山中美央・泉 結香・名塚すみれ・篠田理絵
渡部 彩・一岡万有香・来住香織・戸田早織・蔡雅如・崔 基鮮

キーワード：サウンドスペクトル分析 F1-F2図 母音体系 場面 大学生

目次

I 総論		齋藤 孝滋
II 各論		
1	東京話者	藤沢 綾乃
2	神奈川話者	新堀 薫
3	準神奈川話者(1)	佐久間衣歩
4	準神奈川話者(2)	渋谷絵梨香
5	準神奈川話者(3)	渡辺 詩織
6	千葉	尾関 史
7	準埼玉話者	山中 美央
8	群馬話者(1)	泉結 香
9	群馬話者(2)	名塚すみれ
10	栃木話者	篠田 理絵
11	青森話者	渡部 彩
12	北海道	一岡万有香
13	準大阪一京都話者	来住 香織
14	準福岡話者	戸田 早織
15	台湾話者	蔡 雅如
16	韓国話者	崔 基鮮

I 総論

齋藤 孝滋

1. 目的

齋藤孝滋編、秋田ちあき他(2007)の「I、総論」において、齋藤は、フェリス女学院大学の学生について、「知的な言語使用者層の中で、最も新しい言語パターンに敏感で、自らその使用者となり、言語においてもファッションリーダーとして、社会に少なからぬ影響を与え得る位相にあるとあってよい」とし、「その言語を記録し、体系を明らかにすることは、規範と異なる新しい言語パターンを見出し、その出現の要因を推定し、将来の言語変化を予測することにつながり、また、言語切り替えのパターンを明らかにすることは、言語パターンの位相的特徴と、彼女たちの言語行動そのものを明らかにすることにつながる」と、その研究意義について述べている。

本研究は、そのような考えのもと、フェリス女学院大学の学生の母音体系^①について、二つの異なる場面における実態を音響音声学的に明らかにすることを目的とし、具体的な資料提示と、その概要を示すことを目的とする。

2. 方法

場面設定

α場面：同年代・同性の親しい友人と、自分の部屋でくつろいで話をする場合^②。

β場面：ことばを覚えてたての幼児に、ものの名前を教えるために、はっきりと発音する場合^③。

発話方法：α場面、β場面ともに、共通語の/i/、/e/、/a/、/o/、/u/に対応する母音について、なるべく自然な発話を収録するため、それぞれ「胃」、「絵」、「赤」、「尾」、「鶴」を、実物を頭の中で思い浮かべて発音した。ただし、「赤」については、「『力』を後から外して最初『あ』の音だけ」として/a/のみ音を録音した。原則として各語について、3回ずつ2回に分けて、計6回分を録音した。

収録方法：ヘッドホン付きマイクMS-HIP01K（ルーメン社）により、PCの音声分析ソフト『SUGI SpeechAnalyzer』（アニモ社）に直接録音入力した。

収録場所：フェリス女学院大学緑園キャンパス情報リテラシー教室

収録年月日：2010年4月30日 14:50～16:20の時間内に録音した。

3. 資料提示

本稿における資料提示は、サウンドスペクトル分析による第1フォルマン周波数(F1)、第2フォルマン周波数(F2)、縦軸にF1周波数値、横軸にF2周波数値をとった二次元図である「F1-F2図」によりおこなう⁴⁾。

「F1-F2図」は、通常の座標と異なり、右に行くほどF2の、上に行くほどF1の周波数値が減少する形となっており、これにより、直立した左側を向いた人間内の口腔内の調音点と比較的よく対応した図となっている。なお、周波数値自体は、調音点の聴覚印象とは異なるレベルの声道の長さという個人的体格特徴によって左右される(声道は、「短い」即ち「ピッチが高い」と高くなり、「長い」即ち「ピッチが低い」と低くなる)等の傾向がいられているため、「F1-F2図」の個人間比較は、具体的周波数値の比較ではなく、主に母音体系の形状により行う。

4. 傾向の概要

本稿で客観的に明らかになった傾向の概要をまとめると次のようである。

(なお、括弧内の数字は話者番号、ギリシャ文字は場面を示す)

- ・ /i/, /e/, /u/, /o/の弁別が主に調音点の前後でなされる (2 α)。
- ・ /i/, /u/, /o/の弁別が主に調音点の前後でなされる (1 α , 4 $\alpha\beta$, 8 β , 11 α)。
- ・ /e/, /u/, /o/の弁別が主に調音点の前後でなされる (3 $\alpha\beta$, 7 $\alpha\beta$, 9 $\alpha\beta$, 12 β)。
- ・ /i/, /e/, /u/の弁別が主に調音点の前後でなされる (6 α)。
- ・ /u/と/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる (11 β , 12 α , 13 α , 14 α)。
- ・ /u/と/o/の弁別が主に調音点の高低でなされる (13 β , 15 α)
- ・ /e/の調音点が低い (1 $\alpha\beta$, 2 β , 4 $\alpha\beta$, 5 $\alpha\beta$, 11 $\alpha\beta$, 12 α , 13 $\alpha\beta$, 14 α)。
- ・ /e/の調音点が高い (16 $\alpha\beta$)。
- ・ /e/の調音点が前寄りである (10 β)。
- ・ /u/の調音点が前寄りである (1 $\alpha\beta$, 3 $\alpha\beta$, 4 $\alpha\beta$, 5 $\alpha\beta$, 6 $\alpha\beta$, 9 $\alpha\beta$, 11 $\alpha\beta$, 16 α)。
- ・ /u/の調音点が後寄りである (2 β , 10 β , 13 β , 15 $\alpha\beta$)。
- ・ /u/に円唇化がみられる (2 β , 10 β , 12 β , 15 $\alpha\beta$)。
- ・ /a/の調音点が前寄りである (12 β)。
- ・ 標準語と調音点と同様である (8 α , 10 α , 14 β)

以上より、標準語の指標とされるNHKアナウンサーと調音点と同様である例が少なく、

標準語と異なる多様なパターンが認められるのである。

日本語母語話者（話者1～14）の全体的傾向としては、場面によらず/e/の調音点がより低い傾向があり、/u/については、両場面又は α 場面で調音点が前寄りの例がみられ、 β 場面のみに調音点が後寄りまたは丸唇の例がみられた。

話者15は中国語を母語とする台湾からの留学生、話者16は韓国語を母語とする韓国からの留学生のものであるが、話者15の/u/は両場面で後寄りかつ円唇母音の[u]となっている。これは母語（中国語）の/u[u]を日本語の/u/の母音にあてはめた結果と推定できよう。一方、話者16の/u/はやや前寄りか標準語的な音である。これは母語（韓国語）の/u/と/w/のうち/w/に該当する音声を日本語の/u/の母音にあてはめた結果と推定できよう。

5. 今後の展望

共通語圏の母音体系については、既に自明のことである（/i/, /e/, /a/, /o/, /u/の母音体系で、具体的音声は今石他1984掲載のNHKアナウンサーのものとは大差ない）という認識からか、近年までほとんど注意がむけられていなかった観がある。

そのような中で、本稿で明らかとなった母音体系は、すべて5母音体系ではあるものの、類型論的視点（Crothers 1978他）に立つとき、従来の日本共通語の母音体系の位置づけとは異なるタイプのものが、東京・神奈川話者に限っても複数認められているのである。今後は、類型論的視点による本格的な分析も必要となろう。それらについては、後日を期したい。

フェリス女学院大学の学生を対象とした授業の一環を兼ねた一連の研究により得られた資料は、授業の報告提出単位取得者に、履修授業における全報告資料を使用しそれぞれ独自の視点による個人研究として公表する権利を有するものとしている。この制度を利用して成果をまとめたものに、田中香織（2007）、福圓真理（2009）があり、ともに新知見にあふれた学術的意義の高いものとなっている。

本稿における母音体系の分野についても、今後、各執筆者による独自の視点での研究が、積極的に行われることが期待されるところである⁶⁾。

注

- (1) 本稿における「母音体系」は、母音の個数・弁別パターンのみならず、具体的調音点の位置まで含めた概念として用いる。その理由は、「5. 今後の展望」でも触れているが、類型論的視点による本格的分析を想定しているためである。
- (2) α 場面は、話者が同年代同性に対する際の、最も自然な発話を得る目的で設定したものである。設定においては、学生の出身地が多岐にわたることから、フェリス女学院大学の通学圏内（神奈川県・東京の首都圏近県）の居住家屋を物理的場面の対象とし統一した。
- (3) β 場面は、話者の規範とする言語意識の実現を目指してなされた発話を得る目的設定したものである。
- (4) 具体的分析方法は、齋藤孝滋（1999）に準じた。なお、円唇化の有無は主観的観察法による。
- (5) 齋藤孝滋（2009）で試みたような地理的視点も一つ視点と考える。

文献

- 今石元久・佐藤和之・三輪譲二・吉田則夫・大橋勝男・加藤正信 1984『日本語方言音声のスペクトル分析資料集』（非売品）
- 勝田耕起編 2006『言語生活メカニズムの解明と教育法』DTP出版
- 河先俊子編 2009『日本語・日本文化の発信・受容・変容に関する基礎的研究Ⅱ』
- 齋藤孝滋 2006「岩手方言における形容詞の特徴—活用体系と音声文法の視点から—」『フェリス女学院大学文学部紀要』41
- 齋藤孝滋 2007「談話構造分析の計量的視点による一試案」『フェリス女学院大学文学部多文化・共生コミュニケーション論叢』2
- 齋藤孝滋 2008『正しいか？誤りか？それは問題じゃない 話しことばのフィールドワーク』フェリスブックス13
- 齋藤孝滋 2009「談話の音声的変種の地域性——関東地域における発話速度の地域性」『月刊言語』4月号
- 齋藤孝滋編 1999『地域言語調査研究法』おうふう
- 齋藤孝滋編 2003『現代女子大学生における談話と文法』DTP出版
- 齋藤孝滋編 2005『大学生の日常言語生活に関する記述的・社会言語学的、言語教育学的研究』DTP出版
- 齋藤孝滋編、秋田ちあき・田窪彩・藤田理恵・長谷川真美・杉野友佳・小寺麻菜美・小松由衣・永倉のどか・松澤翔子 2007「首都圏在住女子大学生における場面別形容詞活用体系 1 東日本話者編(1)」『フェリス女学院大学 文学部 多文化・共生コミュニケーション論叢』2
- 齋藤孝滋編 2008『日本語・日本文化の発信・受容・変容に関する基礎的研究』DTP出版
- 齋藤孝滋編、三上祐依・横美波・内山莉聡・若山実紀・三上遥香・橋口綾乃・豊竹沙織・小林千菜美・中嶋千晴・三次阿未「首都圏在住女子大学生における母音無声化規則の計量的類型 1」2009『フェリス女学院大学文学部紀要』44

- 田中香織 2007『談話構造の記述的社会言語学的研究』フェリス女学院大学大学院博士学位論文日本語教育学会編 1987『日本語教育事典』大修館書店
- 吹原 豊編 2010『日本語・日本文化の発信・受容・変容に関する基礎的研究Ⅲ』
- 福圓真理 2009「首都圏在住女子大学生の談話における無助詞化の研究」フェリス女学院大学学士学位論文
- Crothers 1978: Typology and universals of vowel system *Universals of Human Language* 2, p.122

*本研究は、平成22年度地域共同研究支援「多文化交流における共生言語・文化の現状と展望に関する探索的研究」（代表：齋藤孝滋）の研究成果の一部である。

1 東京話者

藤沢 綾乃

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語歴

1990年生

0～現在（20歳） 東京都世田谷区

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 東京都調布市

母 東京都新宿区

1・3. 特筆事項

特になし

2. 測定結果

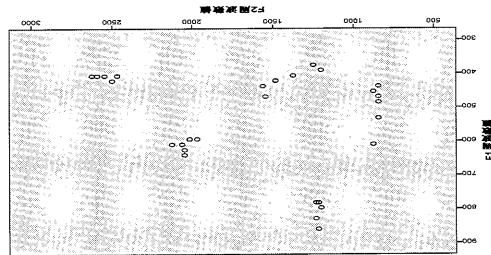
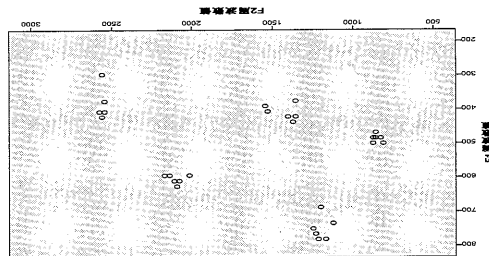
表1. α 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	406	2546	/u/	1	421	1484
	2	406	2625		2	468	1546
	3	406	2546		3	437	1562
	4	421	2500		4	390	1203
	5	406	2593		5	375	1250
	6	406	2468		6	406	1375
/e/	1	609	2125	/o/	1	468	843
	2	625	2046		2	531	843
	3	640	2046		3	609	875
	4	609	2062		4	453	875
	5	593	1968		5	437	843
	6	593	2015		6	484	843
/a/	1	859	1218				
	2	781	1234				
	3	781	1218				
	4	796	1203				
	5	828	1234				
	6	859	1218				

表2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	296	2562	/u/	1	375	1359
	2	406	2578		2	406	1531
	3	375	2546		3	390	1546
	4	406	2546		4	437	1375
	5	406	2578		5	421	1359
	6	421	2562		6	421	1406
/e/	1	593	2140	/o/	1	484	875
	2	625	2093		2	484	859
	3	593	2015		3	484	828
	4	593	2171		4	500	875
	5	609	2109		5	500	812
	6	609	2078		6	468	859
/a/	1	781	1171				
	2	765	1234				
	3	750	1250				
	4	734	1125				
	5	781	1218				
	6	687	1203				

3. F1-F2図

図1. α 場面における各拍母音のF1-F2図図2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

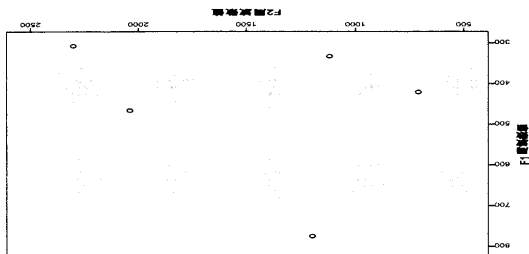


図3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

/i/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる。

/e/の調音点が低い。

/u/の調音点がやや前寄りである。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

/e/の調音点が低い。

/u/の調音点がやや前寄りである。

5. 結論

α 場面においては、/i/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされているが、 β 場面では、標準語と同様に、/o/の調音点が低くなり、/i/、/u/との弁別が前後のみならず高低でもなされている。

2 神奈川県話者

新堀 薫

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語暦

1989年生

0～現在（20歳） 神奈川県茅ヶ崎市

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 神奈川県横浜市 母 神奈川県横浜市

1・3. 特筆事項

特になし

2. 調査結果

表1. α 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	406	3125	/u/	1	421	1453
	2	359	3312		2	453	1187
	3	375	3109		3	468	1343
	4	406	2828		4	375	1375
	5	421	2906		5	359	1265
	6	496	2890		6	406	1265
/e/	1	515	2609	/o/	1	468	859
	2	468	2500		2	468	890
	3	546	2515		3	453	853
	4	562	2468		4	484	890
	5	546	2463		5	473	859
	6	578	2468		6	453	906
/a/	1	1062	1562				
	2	1109	1578				
	3	968	1578				
	4	×	×				
	5	×	×				
	6	×	×				

表 2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	406	2859	/u/	1	359	1046
	2	406	3359		2	323	1078
	3	375	3203		3	437	1265
	4	323	3218		4	453	1218
	5	328	3265		5	468	1296
	6	328	3062		6	500	1312
/e/	1	656	2687	/o/	1	484	750
	2	656	2625		2	500	765
	3	656	2593		3	515	781
	4	703	2531		4	484	796
	5	656	2468		5	531	781
	6	687	2546		6	531	781
/a/	1	1296	1795				
	2	1156	1812				
	3	1171	1734				
	4	1015	1593				
	5	984	1578				
	6	984	1546				

3. F1-F2図

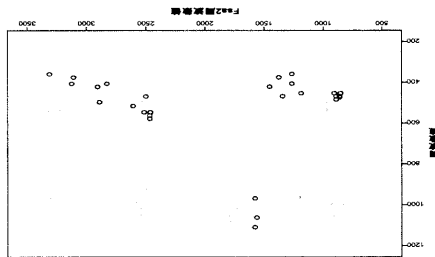


図 1. α 場面における各拍母音のF1-F2図

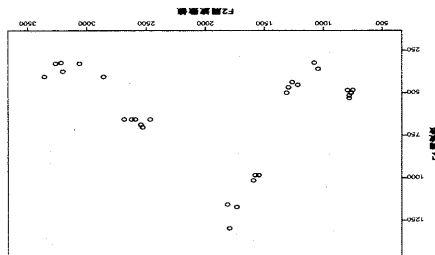


図 2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

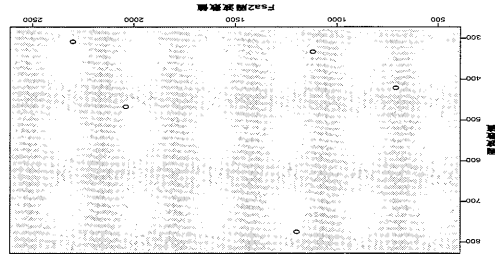


図 3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

/i/、/e/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

/e/の調音点が低い。

/u/の調音点が後寄りである。

/u/に円唇化がみられる。

5. 結論

α 場面においては、/i/、/e/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされ、 β 場面においては、/e/が低くなることで、/i/と/e/の弁別が標準語と同様に、前後のみならず高低でもなされる点特徴的である。

なお、 β 場面において、/u/に円唇化がみられ、/u/と/o/の弁別が、完全に調音点の前後のみでなされる点は、特筆に価する。

3 準神奈川話者(1)

佐久間衣歩

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語歴

1992年生

0～現在 (18歳) 神奈川県高座郡寒川町

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 愛知県名古屋市 母 岐阜県加茂郡坂祝町

1・3. 特筆事項

特になし

2. 調査結果

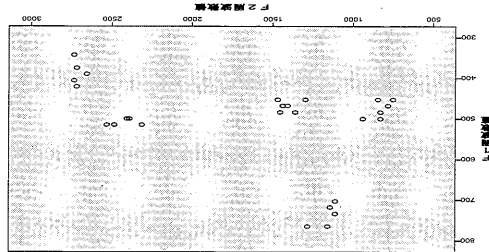
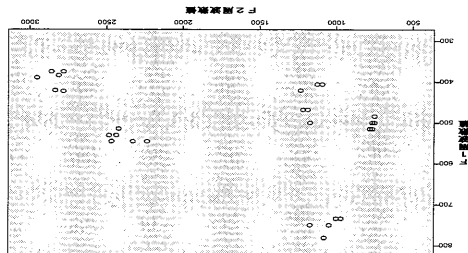
表1. α場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	343	2734	/u/	1	468	1406
	2	390	2656		2	484	1359
	3	375	2718		3	468	1437
	4	421	2718		4	453	1296
	5	406	2734		5	453	1468
	6	375	2718		6	484	1453
/e/	1	515	2531	/o/	1	500	828
	2	500	2390		2	468	781
	3	515	2312		3	500	937
	4	515	2531		4	453	750
	5	515	2484		5	453	843
	6	500	2406		6	484	828
/a/	1	734	1109				
	2	703	1109				
	3	718	1140				
	4	765	1056				
	5	765	1281				
	6	718	1140				

表 2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	375	2859	/u/	1	515	1234
	2	390	2953		2	500	1328
	3	421	2834		3	500	1343
	4	375	2781		4	500	1312
	5	384	2812		5	484	1296
	6	423	2781		6	468	1296
/e/	1	546	2468	/o/	1	515	781
	2	546	2328		2	484	750
	3	546	2234		3	515	765
	4	515	2421		4	515	781
	5	531	2484		5	500	765
	6	531	2437		6	500	750
/a/	1	781	1078				
	2	781	1078				
	3	734	1000				
	4	750	1171				
	5	734	968				
	6	750	1046				

3. F1・F2図

図 1. α 場面における各拍母音のF1-F2図図 2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

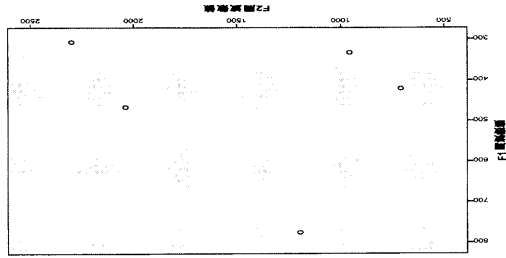


図3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

/e/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる。

/u/の調音点が前寄りである。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

α 場面と同様であるが、/u/にやや高めのバリエーションがみられる。

5. 結論

α 場面・ β 場面ともに標準語と異なり、/e/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる点が特徴的である。

4 準神奈川話者(2)

渋谷絵梨香

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語歴

1990年生

0～現在（19歳） 神奈川県横浜市

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 埼玉県浦和市

母 東京都大田区

1・3. 特筆事項

2. 測定結果

表1. α 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	296	2984	/u/	1	390	1296
	2	406	2859		2	390	1140
	3	406	2656		3	406	1265
	4	312	2921		4	390	1359
	5	343	2703		5	390	1234
	6	343	2875		6	375	1328
/e/	1	671	2296	/o/	1	437	765
	2	671	2234		2	453	828
	3	625	2375		3	437	859
	4	609	2453		4	421	828
	5	656	2250		5	515	828
	6	656	2156		6	468	812
/a/	1	937	1421				
	2	921	1390				
	3	828	1218				
	4	781	1171				
	5	875	1171				
	6	843	1187				

表 2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	437	2921	/o/	1	468	781
	2	500	2921		2	453	718
	3	468	3015		3	453	718
	4	296	3000		4	453	750
	5	375	2843		5	453	753
	6	296	2984		6	453	734
/e/	1	593	2609	/u/	1	437	1562
	2	656	2515		2	468	1437
	3	687	2531		3	437	1578
	4	656	2359		4	453	1406
	5	690	2359		5	468	1437
	6	656	2328		6	437	1531
/a/	1	890	1334				
	2	984	1359				
	3	890	1328				
	4	937	1578				
	5	953	1546				
	6	921	1578				

3. F1、F2図

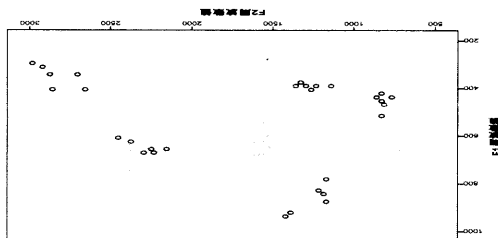


図 1. α 場面における各拍母音のF1-F2図

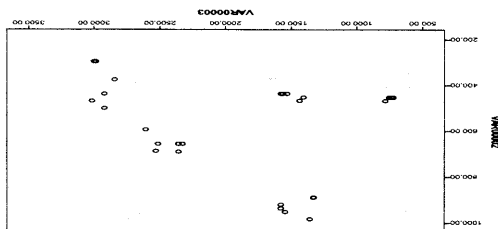


図 2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

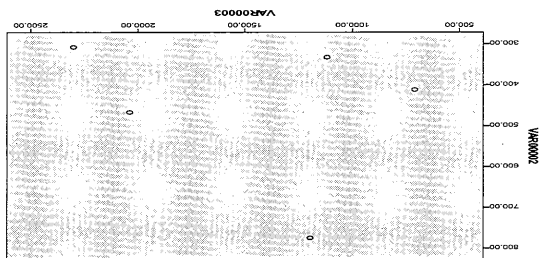


図 3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

/i/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる。

/e/の調音点が低い。

/u/の調音点が前寄りである。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

α 場面と同様である。

5. 結論

α 場面・ β 場面ともに、/i/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる点が特徴的である。

5 準神奈川話者(3)

渡辺 詩織

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語歴

1989年生

0～8歳 神奈川県小田原市

8～現在(21歳) 神奈川県川崎市

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 秋田県 母 鹿児島県曾於市

1・3. 特筆事項

特になし

2. 測定結果

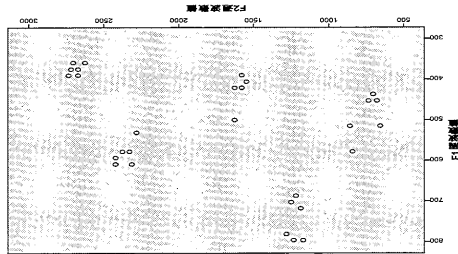
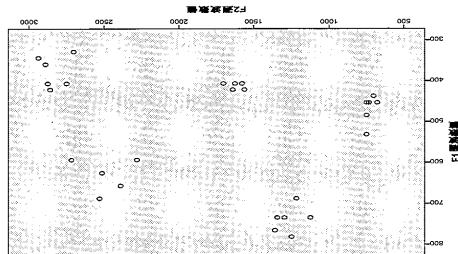
表1. α 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	390	2750	/o/	1	562	796
	2	359	2656		2	578	3359
	3	328	2640		3	515	3000
	4	375	2671		4	593	2234
	5	390	2671		5	578	3171
	6	375	2687		6	578	2796
/e/	1	593	2437	/u/	1	412	1546
	2	578	2437		2	500	1625
	3	609	2312		3	375	1625
	4	546	2375		4	390	1656
	5	531	2421		5	406	1593
	6	578	2359		6	390	1593
/a/	1	812	1234				
	2	718	1234				
	3	750	1078				
	4	796	1218				
	5	640	1218				
	6	687	1218				

表 2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	343	2937	/o/	1	531	750
	2	328	2703		2	453	750
	3	406	2875		3	484	750
	4	359	2890		4	453	678
	5	406	2750		5	453	734
	6	421	2859		6	437	703
/e/	1	687	2531	/u/	1	406	1578
	2	625	2515		2	406	1625
	3	656	2390		3	421	1640
	4	734	1296		4	406	1703
	5	593	2718		5	421	1562
	6	593	2281		6	421	1640
/a/	1	734	1296				
	2	765	1359				
	3	609	1343				
	4	546	2359				
	5	593	1093				
	6	781	1093				

3. F1-F2図

図 1. α 場面における各拍母音のF1-F2図図 2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

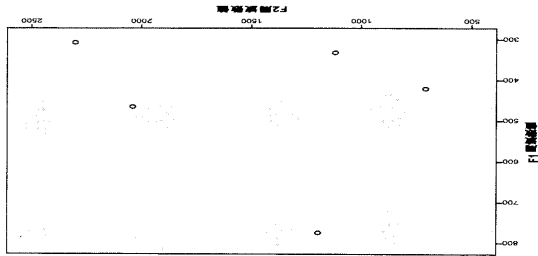


図3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

/e/の調音点が低い。

/u/の調音点が前寄りである。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

α 場面と同様であるが、/e/の調音点がさらに低くなっている。。

5. 結論

α 場面・ β 場面ともに、母音体系の傾向は標準語と同様であるが、/e/の調音点が低く、/u/の調音点が前寄りである点で異なる。

6 千葉話者

尾関 史

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語歴

1992生

0～現在（18歳） 千葉縣市原市

1・2. 育ててくれた人の出身地

祖父 千葉縣市原市 祖母 千葉縣市原市

父 愛知県瀬戸市 母 千葉縣市原市

1・3. 特筆事項

特になし

2. 測定結果

表1. α 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	416	2764	/u/	1	390	1475
	2	373	2812		2	421	1491
	3	397	2796		3	406	1502
	4	406	2740		4	359	1515
	5	406	2746		5	375	1500
	6	390	2703		6	359	1484
/e/	1	437	2203	/o/	1	477	868
	2	437	2203		2	451	843
	3	343	2093		3	491	843
	4	372	2201		4	484	845
	5	431	2203		5	515	870
	6	343	2250		6	515	875
/a/	1	884	1181				
	2	878	1203				
	3	853	1259				
	4	850	1182				
	5	832	1250				
	6	797	1218				

表 2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	437	2843	/u/	1	437	1562
	2	390	2875		2	437	1534
	3	401	2904		3	390	1581
	4	328	2687		4	375	1515
	5	343	2665		5	375	1609
	6	421	2708		6	390	1593
/e/	1	546	2296	/o/	1	506	921
	2	596	2323		2	503	908
	3	510	2343		3	421	921
	4	625	2234		4	546	796
	5	593	2205		5	500	843
	6	609	2203		6	484	859
/a/	1	906	1328				
	2	952	1437				
	3	968	1375				
	4	828	1359				
	5	843	1343				
	6	811	1312				

3. F1-F2図

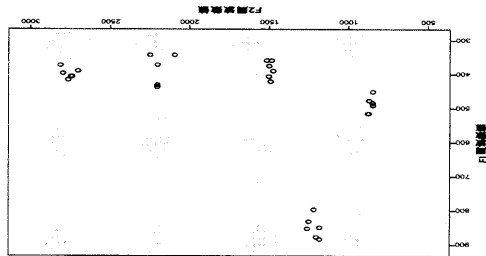


図 1. α 場面における各拍母音のF1-F2図

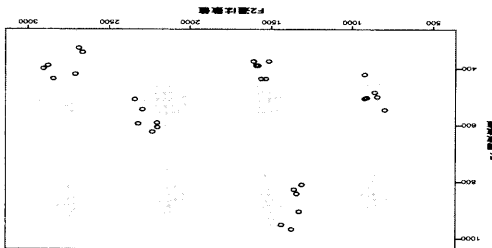


図 2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

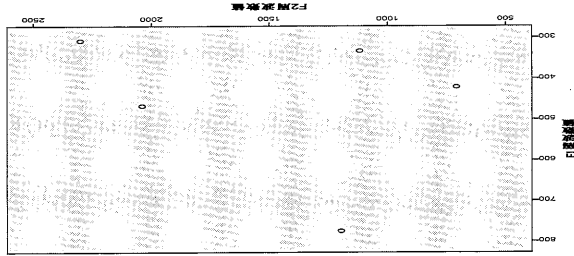


図 3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

/i/、/e/、/u/の弁別が主に調音点の前後でなされる。

/u/の調音点が前寄りである。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

/u/の調音点が前寄りである以外は、標準語と同様である。

5. 結論

α 場面において、/i/、/e/、/u/の弁別が主に調音点の前後でなされる点特徴的である。

また、 β 場面においては、 α 場面の母音体系内で、/e/の調音点のみを標準語と同様の位置に変化させている点特徴的である。

7 準埼玉話者

山中 美央

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語歴

1991年生

0～2歳 埼玉県春日部市

3～9歳 埼玉県越谷市

10～現在 (19歳) 埼玉県さいたま市

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 鹿児島県鹿児島市 母 熊本県熊本市

1・3. 特筆事項

特になし

2. 測定結果

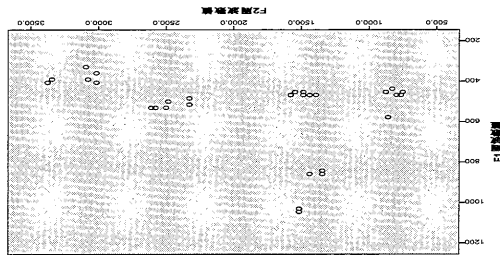
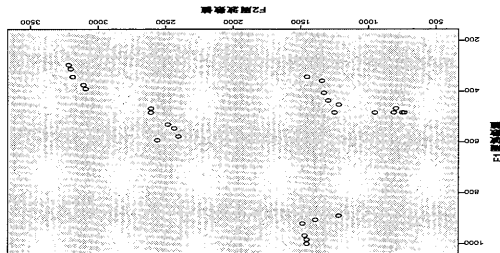
表1. α場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	390	3343	/u/	1	468	1390
	2	328	3093		2	453	1484
	3	406	3375		3	468	1437
	4	359	3015		4	468	1484
	5	406	3015		5	468	1578
	6	390	3078		6	453	1546
/e/	1	531	2609	/o/	1	468	796
	2	531	2578		2	437	828
	3	531	2500		3	468	765
	4	515	2328		4	453	875
	5	500	2484		5	453	750
	6	484	2328		6	578	859
/a/	1	859	1343				
	2	843	1343				
	3	859	1437				
	4	1031	1515				
	5	1046	1515				
	6	1046	1515				

表 2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	296	3218	/u/	1	359	1343
	2	312	3203		2	406	1328
	3	375	3109		3	343	1453
	4	343	3190		4	453	1218
	5	390	3093		5	437	1296
	6	343	3187		6	484	1250
/e/	1	468	2609	/o/	1	484	750
	2	593	2562		2	468	796
	3	578	2406		3	484	812
	4	484	2609		4	484	953
	5	531	2484		5	484	750
	6	546	2437		6	484	734
/a/	1	1000	1453				
	2	921	1484				
	3	968	1468				
	4	890	1218				
	5	906	1390				
	6	984	1453				

3. F1-F2図

図 1. α 場面における各拍母音のF1-F2図図 2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

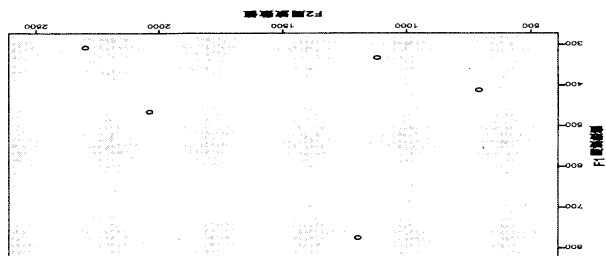


図3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

/e/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

α 場面と同様であるが、特に/e/と/u/におけるF1のばらつきが大きい。

5. 結論

α 場面・ β 場面ともに、特に/e/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる点が、特筆に価する。

8 群馬話者

泉 結香

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語暦

1990年生

0～18歳 群馬県桐生市

18～現在（19歳） 神奈川県横浜市

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 群馬県桐生市 母 群馬県伊勢崎市

1・3. 特筆事項

特になし

2. 測定結果

表1. α場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	390	3203	/o/	1	562	1062
	2	375	3171		2	484	1062
	3	390	3140		3	546	984
	4	437	2984		4	546	984
	5	375	2812		5	562	1093
	6	390	2953		6	609	1078
/e/	1	640	2645	/u/	1	468	1437
	2	640	2765		2	468	1656
	3	656	2625		3	421	1734
	4	593	2500		4	437	1734
	5	515	2562		5	437	1781
	6	531	2593		6	437	1781
/a/	1	968	1562				
	2	921	1656				
	3	890	1625				
	4	1015	1578				
	5	906	1671				
	6	875	1593				

表 2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	359	3234	/o/	1	453	843
	2	359	3265		2	453	843
	3	359	3140		3	453	828
	4	328	3234		4	468	796
	5	359	3203		5	437	875
	6	359	3218		6	453	828
/e/	1	625	2843	/u/	1	437	1546
	2	593	2843		2	437	1593
	3	593	2890		3	453	1718
	4	656	2718		4	421	1531
	5	515	2765		5	437	1828
	6	578	2734		6	421	1921
/a/	1	1031	1750				
	2	1031	1546				
	3	1078	1578				
	4	953	1421				
	5	953	1562				
	6	937	1500				

3. F1-F2図

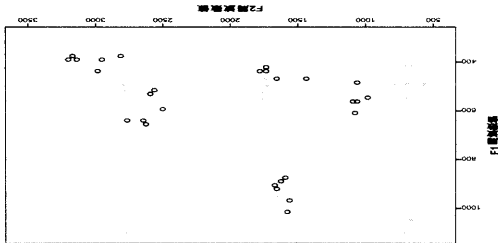


図 1. α 場面における各拍母音のF1-F2図

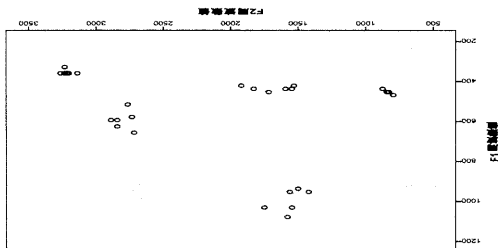


図 2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

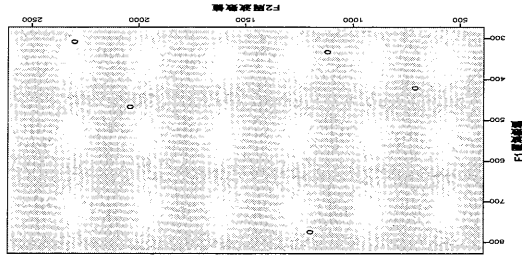


図3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

標準語と調音点が同様である。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

/i/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる。

5. 結論

母音体系は、 α 場面においては標準語と同様の体系であるが、 β 場面において、/i/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる非標準語的体系となる点で、特徴的である。

9 群馬話者(2)

名塚すみれ

1. 話者のプロフィール

1・2. 言語歴

1991年生

0～1歳 群馬県沼田市

1～18歳 群馬県渋川市（旧赤城村）

18～現在（19歳） 神奈川県横浜市

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 群馬県渋川市（旧赤城村） 母 群馬県高崎市（旧吉井町）

祖父 群馬県渋川市（旧赤城村） 祖母 群馬県前橋市（旧富士見町）

1・3. 特筆事項

特になし

2. 測定結果

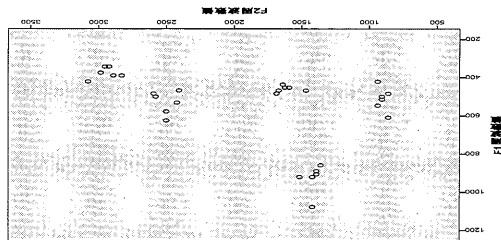
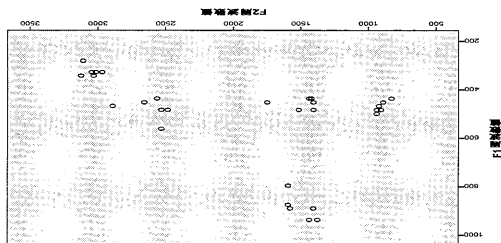
表1. α 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	343	2953	/u/	1	453	1593
	2	375	2984		2	468	1468
	3	390	2890		3	453	1625
	4	421	3078		4	437	1640
	5	343	2921		5	484	1687
	6	390	2828		6	468	1671
/e/	1	625	2500	/o/	1	484	859
	2	578	2500		2	500	906
	3	484	2593		3	609	859
	4	500	2578		4	421	937
	5	468	2406		5	515	906
	6	531	2421		6	546	937
/a/	1	1078	1421				
	2	921	1421				
	3	906	1390				
	4	890	1390				
	5	859	1359				
	6	921	1515				

表2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	281	3109	/u/	1	437	1421
	2	343	3125		2	437	1437
	3	343	3031		3	453	1406
	4	328	3015		4	453	1750
	5	328	2968		5	484	1515
	6	328	3046		6	484	1406
/e/	1	468	2890	/o/	1	484	906
	2	437	2562		2	500	937
	3	453	2656		3	468	921
	4	484	2531		4	453	890
	5	484	2484		5	484	937
	6	562	2531		6	437	828
/a/	1	890	1578				
	2	937	1437				
	3	890	1406				
	4	796	1593				
	5	875	1593				
	6	937	1375				

3. F1-F2図

図1. α 場面における各拍母音のF1-F2図図2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

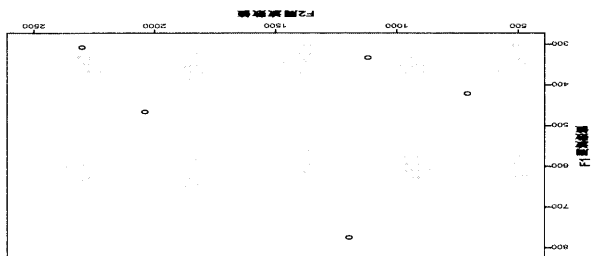


図3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

/e/、/u/、/o/の調音点が主に調音点の前後でなされる。

/u/の調音点が、前寄りである。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

α 場面と同様である。

5. 結論

/e/、/u/、/o/の調音点が主に調音点の前後でなされる点が、特筆に値する。

10 栃木話者

篠田 理絵

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語歴

1987年生

0～17歳 栃木県小山市

17～20歳 カナダ オンタリオ州トロント市

20～現在 (22歳) 神奈川県横浜市

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 栃木県小山市 母 栃木県佐野市

1・3. 特記事項

特になし

2. 測定結果

表1. α 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	375	2828	/u/	1	406	1359
	2	406	2781		2	437	1406
	3	359	2875		3	437	1390
	4	359	2781		4	453	1375
	5	343	2781		5	453	1343
	6	406	2812		6	453	1250
/e/	1	531	2500	/o/	1	500	796
	2	546	2531		2	486	750
	3	656	2359		3	484	812
	4	593	2500		4	468	875
	5	593	2500		5	546	890
	6	578	2390		6	515	796
/a/	1	921	1343				
	2	968	1312				
	3	890	1359				
	4	968	1437				
	5	859	1515				
	6	890	1484				

表 2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	328	2875	/u/	1	390	1187
	2	296	2750		2	406	1218
	3	328	2828		3	421	1218
	4	328	2890		4	390	1109
	5	328	2906		5	406	1218
	6	359	2984		6	406	1187
/e/	1	531	2937	/o/	1	453	953
	2	578	2843		2	453	921
	3	546	2406		3	515	921
	4	515	2718		4	468	921
	5	546	2375		5	468	921
	6	562	2343		6	500	906
/a/	1	953	1453				
	2	937	1500				
	3	921	1343				
	4	921	1437				
	5	921	1390				
	6	953	1437				

3. F1-F2図

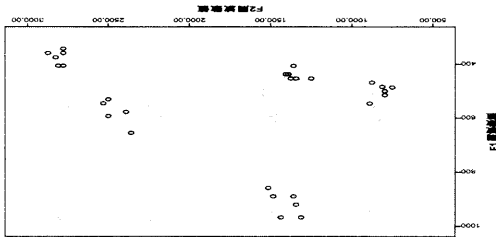


図 1. α 場面における各拍母音のF1-F2図

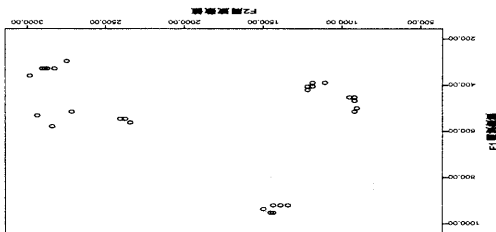


図 2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

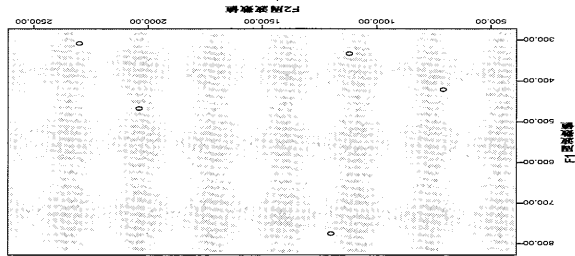


図3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

標準語と調音点が同様である。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

/e/の調音点が前寄りである。

/u/の調音点が後寄りである。

/u/に円唇化がみられる。

5. 結論

母音体系は、 α 場面においては標準語と同様の体系であるが、 β 場面において、/e/については調音点が前寄りで、/u/については調音点が後寄りかつ円唇化がみられる非標準語的体系となる点で、特徴的である。

11 青森話者

渡部 彩

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語歴

1989年生

0～4歳 青森県青森市

4～9歳 青森県野辺地町

10～15歳 青森県十和田市

15～18歳 青森県十和田市（高校は青森県八戸市）

18～現在（20歳） 神奈川県横浜市

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 青森県むつ市 母 青森県青森市

1・3. 特筆事項

特になし

2. 測定結果

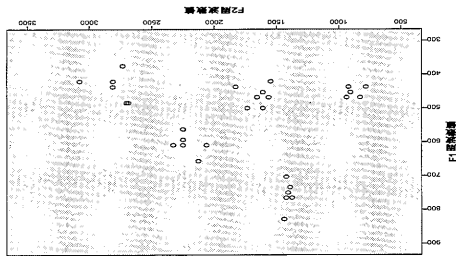
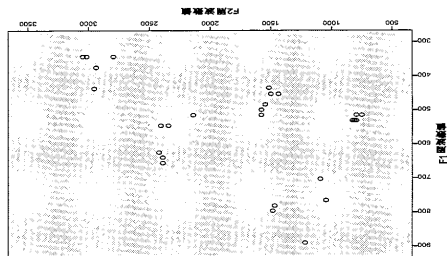
表1. α場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	421	2812	/u/	1	437	781
	2	437	2812		2	468	937
	3	421	3078		3	437	921
	4	375	2734		4	437	1828
	5	484	2703		5	468	828
	6	484	2687		6	453	906
/e/	1	562	2250	/o/	1	421	1546
	2	609	2250		2	468	1656
	3	656	2127		3	453	1609
	4	609	2328		4	468	1562
	5	593	2250		5	500	1734
	6	609	2062		6	500	1609
/a/	1	828	1437				
	2	703	1421				
	3	734	1390				
	4	765	1375				
	5	765	1421				
	6	750	1406				

表 2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	375	2937	/u/	1	515	750
	2	437	2953		2	531	796
	3	343	3046		3	531	828
	4	343	3015		4	515	796
	5	343	2796		5	515	796
	6	343	3046		6	531	812
/e/	1	625	2421	/o/	1	435	1515
	2	640	2390		2	484	1546
	3	656	2390		3	453	1500
	4	546	2406		4	453	1437
	5	515	2140		5	500	1578
	6	546	2343		6	515	1578
/a/	1	796	1484				
	2	781	1468				
	3	781	1468				
	4	703	1093				
	5	765	1046				
	6	890	1218				

3. F1-F2図

図 1. α 場面における各拍母音のF1-F2図図 2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

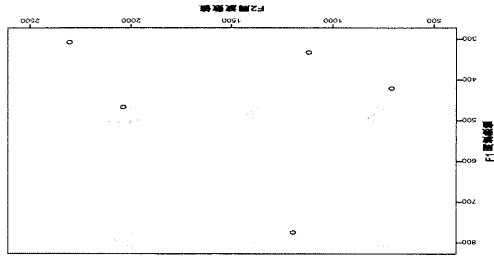


図3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α場面における母音体系の特徴

/i/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる。

/e/の調音点が低い。

/u/の調音点が前寄りである。

4・2. β場面における母音体系の特徴

/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる。

/e/の調音点が低い。

/u/の調音点が前寄りである。

5. 結論

α場面においては、/i/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされ、β場面においては、やや標準語的の体系に近づくものの、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる点特徴的である。

12 北海道話者

一岡万有香

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語歴

1989年生

0～10歳 北海道札幌市北区屯田

11～現在（20歳） 東京都大田区南雪谷

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 北海道札幌市 母 北海道札幌市

1・3. 特筆事項

16～18歳 放送委員会所属

18～現在（20） 劇団で発声、滑舌の指導を受ける。

19～現在（20） ヴォイストレーニングで、発声、滑舌の指導を受ける。

2. 語測定結果

表1. α 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	328	3343	/u/	1	390	1515
	2	390	3062		2	421	1515
	3	343	3218		3	421	1500
	4	312	3250		4	421	1562
	5	359	3234		5	421	1468
	6	328	3265		6	421	1500
/e/	1	562	2718	/o/	1	453	1140
	2	625	2671		2	468	1031
	3	640	2671		3	468	1125
	4	515	2734		4	453	1171
	5	671	2671		5	468	1062
	6	640	2734		6	468	1125
/a/	1	1140	1656				
	2	1140	1562				
	3	953	1687				
	4	1125	1843				
	5	1015	1515				
	6	1000	1500				

表2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	296	3312	/u/	1	468	1515
	2	296	3125		2	500	1453
	3	343	3234		3	500	1500
	4	343	3156		4	484	1593
	5	343	3203		5	515	1500
	6	312	3218		6	500	1515
/e/	1	578	2687	/o/	1	578	1046
	2	562	2781		2	515	1046
	3	625	2531		3	515	1079
	4	578	2781		4	515	1015
	5	562	2921		5	562	1000
	6	593	2796		6	546	1046
/a/	1	1234	2281				
	2	1203	1859				
	3	1234	2031				
	4	1187	2312				
	5	1234	1843				
	6	1234	2046				

3. F1-F2図

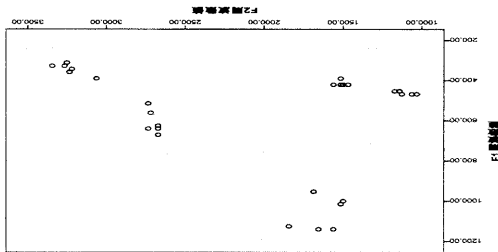


図1. α 場面における各拍母音のF1-F2図

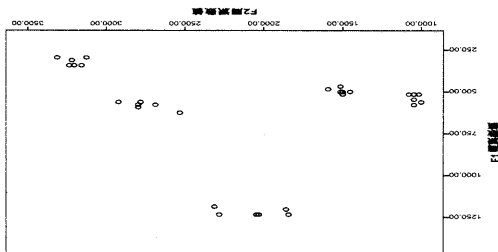


図2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

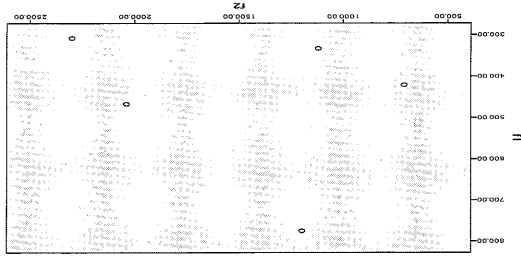


図 3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる。

/e/の調音点が低い。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

/e/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる。

/u/に円唇化がみられる。

/a/の調音点が前寄りである。

5. 結論

母音体系は、 α 場面においては、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる点で特徴的であるが、 β 場面においては、/e/、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる等、標準語と大きく異なる体系となる点で、極めて特徴的であるといえる。

13 準大阪—京都話者

来住 香織

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語暦

1990年生

0～1歳 愛知県名古屋市

1～5歳 大阪府堺市

6～13歳 京都府西京区

13～現在 (19歳) 東京都練馬区

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 宮崎県都城市 母 愛知県名古屋市

1・3. 特筆事項

特になし

2. 測定結果

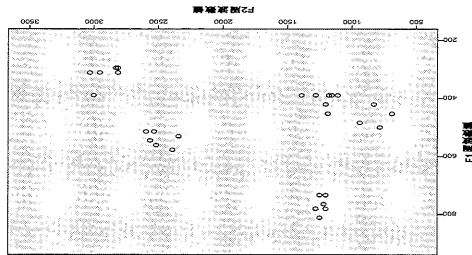
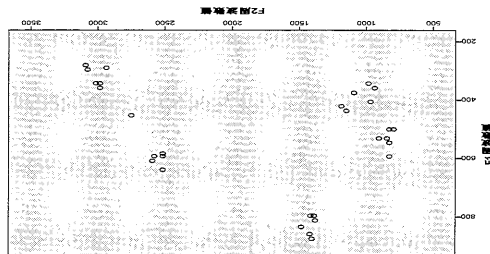
表1. α場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	296	2812	/u/	1	390	1156
	2	296	2828		2	390	1109
	3	312	2812		3	390	1178
	4	312	3031		4	421	1203
	5	312	2953		5	390	1281
	6	390	3000		6	390	1390
/e/	1	515	2531	/o/	1	453	1187
	2	515	2593		2	453	687
	3	546	2562		3	500	781
	4	578	2390		4	484	937
	5	562	2515		5	500	781
	6	531	2343		6	421	828
/a/	1	781	1203				
	2	812	1250				
	3	781	1281				
	4	765	1218				
	5	734	1203				
	6	734	1250				

表 2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	296	3078	/u/	1	343	984
	2	343	2984		2	375	1093
	3	359	2984		3	359	937
	4	343	3015		4	437	1150
	5	290	2937		5	406	968
	6	281	3093		6	421	1187
/e/	1	453	2750	/o/	1	531	846
	2	593	2515		2	593	828
	3	584	2515		3	531	906
	4	609	2593		4	500	796
	5	640	2515		5	500	828
	6	593	2578		6	546	828
/a/	1	812	1381				
	2	859	1421				
	3	875	1406				
	4	796	1390				
	5	834	1484				
	6	796	1415				

3. F1-F2図

図 1. α 場面における各拍母音のF1-F2図図 2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

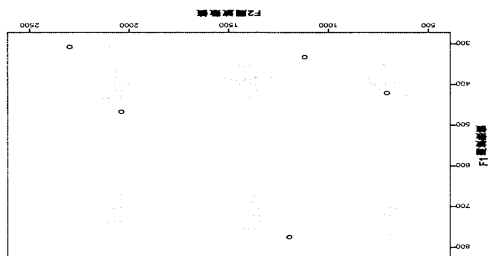


図3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる。

/e/の調音点が低い。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

/u/、/o/の弁別が主に調音点の高低でなされる。

/e/の調音点が低い。

/u/の調音点が後寄りである。

5. 結論

/u/、/o/の弁別が、 α 場面では主に調音点の前後でなされるのに対し、 β 場面では、主に調音点の高低でなされるというように、場面により弁別方法が異なる点が、特筆に値する。

14 準福岡話者

戸田 早織

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語歴

1989年生

0～5歳 福岡県北九州市

5～10歳 千葉県市川市

10～18歳 福岡県福岡市

18～現在(21歳) 神奈川県横浜市

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 大阪府大阪市 母 福岡県北九州市

1・3. 特筆事項

高校：コーラス部所属 大学：ミュージカル部所属

2. 測定結果

表1. α場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	328	2828	/u/	1	406	1250
	2	359	2781		2	421	1484
	3	390	2859		3	453	1421
	4	343	2796		4	406	1515
	5	359	2859		5	437	1406
	6	375	2796		6	437	1500
/e/	1	625	2531	/o/	1	453	875
	2	593	2515		2	437	859
	3	578	2406		3	468	875
	4	562	2546		4	468	953
	5	609	2468		5	500	890
	6	562	2468		6	500	921
/a/	1	812	1281				
	2	812	1421				
	3	875	1406				
	4	828	1359				
	5	875	1421				
	6	796	1359				

表2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	312	3031	/u/	1	375	1250
	2	359	2875		2	406	1406
	3	343	2859		3	375	1421
	4	343	2890		4	343	1468
	5	281	2843		5	375	1562
	6	328	2765		6	390	1593
/e/	1	562	2593	/o/	1	468	890
	2	546	2500		2	500	984
	3	515	2484		3	484	921
	4	578	2515		4	484	796
	5	515	2453		5	484	906
	6	500	2531		6	468	906
/a/	1	890	1359				
	2	921	1437				
	3	968	1468				
	4	875	1406				
	5	859	1406				
	6	859	1375				

3. F1-F2図

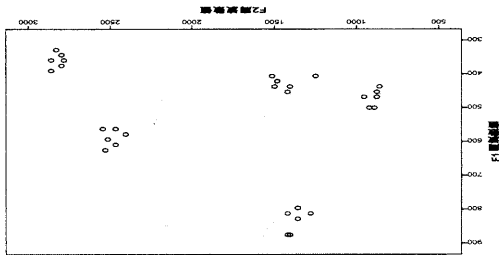


図1. α 場面における各拍母音のF1-F2図

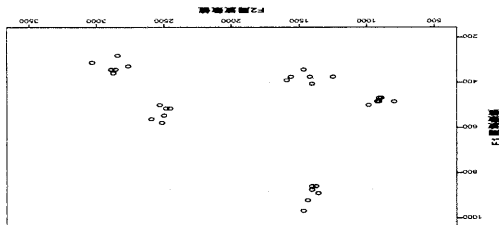


図2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

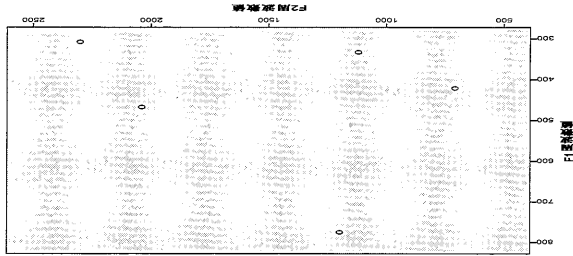


図3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる。

/e/の調音点が低い。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

標準語と調音点が同様である。

5. 結論

母音体系は、 α 場面においては、/u/、/o/の弁別が主に調音点の前後でなされる非標準語的体系である点で特徴的であるが、 β 場面においては標準語と同様の体系になっている。

15 台湾話者

蔡 雅如

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語歴

1981年生

0～18歳 台湾台南県

18～25歳 台湾台北市

26～現在 (29歳) 日本宮城県仙台市

1・2. 育てくれた人の出身地

父 台湾台南県 (閩南語) 母 台湾台南県 (閩南語)

1・3. 特筆事項

18歳から日本語を勉強している。

2. 測定結果

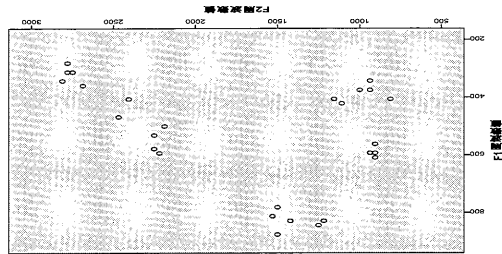
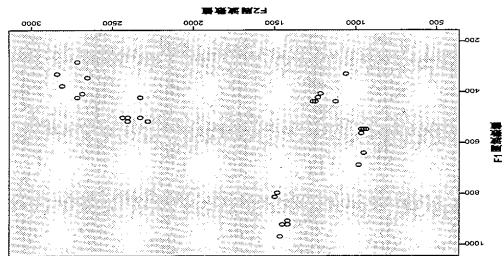
表1. α場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	281	2781	/u/	1	343	937
	2	312	2781		2	375	937
	3	343	2812		3	343	937
	4	359	2687		4	406	1156
	5	312	2750		5	421	1109
	6	312	2750		6	375	1000
/e/	1	468	2468	/o/	1	562	906
	2	500	2187		2	406	812
	3	406	2406		3	593	906
	4	531	2250		4	609	906
	5	578	2250		5	593	937
	6	593	2218		6	593	937
/a/	1	875	1500				
	2	781	1500				
	3	812	1531				
	4	843	1250				
	5	828	1218				
	6	828	1421				

表 2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	328	2843	/u/	1	437	1125
	2	281	2718		2	328	1062
	3	343	2656		3	437	1250
	4	375	2812		4	406	1218
	5	406	2687		5	437	1265
	6	421	2718		6	421	1234
/e/	1	500	2406	/o/	1	562	968
	2	515	2281		2	546	968
	3	500	2328		3	687	984
	4	500	2437		4	546	937
	5	515	2406		5	640	953
	6	421	2328		6	546	953
/a/	1	906	1421				
	2	921	1421				
	3	921	1453				
	4	968	1468				
	5	796	1484				
	6	812	1500				

3. F1-F2図

図 1. α 場面における各拍母音のF1-F2図図 2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

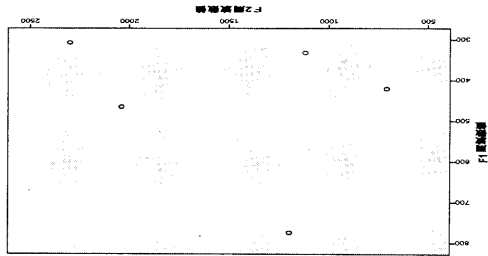


図3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における母音体系の特徴

/u/、/o/の区別が主に調音点の高低でなされる。

/u/の調音点が後寄りである。

/u/に円唇化がみられる。

4・2. β 場面における母音体系の特徴

/u/の調音点が後寄りである。

/u/に円唇化がみられる。

5. 結論

母音体系は、 α 場面においては、/u/、/o/の弁別が主に調音点の高低でなされており、 β 場面においては、標準語と同様の調音点となっている点で特徴的である。

16 韓国話者

崔 基鮮

1. 話者のプロフィール

1・1. 言語歴

1981年生

0～26歳 韓国 仁川市

26～現在 (29歳) 東京都豊島区

1・2. 育ててくれた人の出身地

父 韓国京畿道 母 韓国江原道

1・3. 特筆事項

26歳から日本語を学ぶ。

2. 測定結果

表1. α 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	343	2906	/u/	1	437	2000
	2	312	2953		2	437	1578
	3	328	2875		3	406	1703
	4	343	3093		4	437	1921
	5	359	3156		5	437	1531
	6	343	2906		6	406	1718
/e/	1	546	2500	/o/	1	500	875
	2	531	2406		2	562	890
	3	531	2453		3	531	890
	4	546	2484		4	537	796
	5	453	2468		5	593	843
	6	484	2593		6	562	890
/a/	1	1046	1593				
	2	1046	1609				
	3	1015	1593				
	4	1093	1500				
	5	1062	1484				
	6	1046	1531				

表2. β 場面における各拍母音のF1、F2周波数値

拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)	拍 /CV/	発話順番 (回目)	F1 (Hz)	F2 (Hz)
/i/	1	328	2953	/u/	1	406	1453
	2	328	2750		2	390	1406
	3	312	2921		3	406	1671
	4	390	2984		4	390	1406
	5	434	2890		5	390	1484
	6	390	2843		6	359	1531
/e/	1	468	2687	/o/	1	468	875
	2	484	2484		2	437	828
	3	453	2500		3	453	875
	4	531	2625		4	437	781
	5	500	2625		5	437	828
	6	531	2453		6	468	828
/a/	1	984	1468				
	2	984	1421				
	3	953	1406				
	4	1031	1450				
	5	980	1484				
	6	953	1390				

3. F1-F2の図

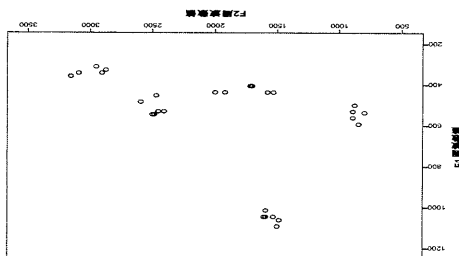


図1. α 場面における各拍母音のF1-F2図

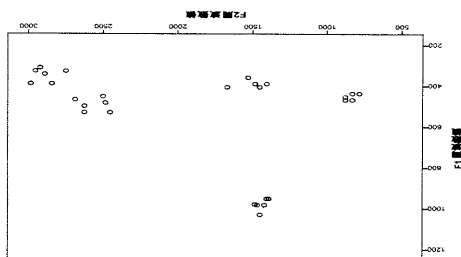


図2. β 場面における各拍母音のF1-F2図

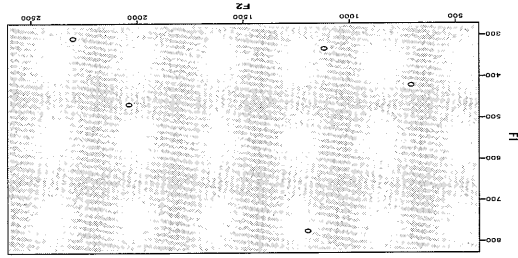


図3. 標準語における各拍母音のF1-F2図

4. 考察

4・1. α 場面における 母音体系の特徴

/e/の調音点が高い。

/u/の調音点が前寄りである。

4・2. β 場面における 母音体系の特徴

/e/の調音点が高い。

5. 結論

母音体系は、 α 場面・ β 場面ともに、/e/の調音点が高く、 α 場面において、/u/の調音点が前寄りである。

(本学教授・本学学生)